

このモデルハウスには、当該プロジェクトで生産された関市有林材が利用されています。

主伐・再造林実証プロジェクト

関市有林(関市上之保) 地産地消型プロジェクト

<森林の状況>

利用伐期を迎えた高齢級の森林が多く、若い森林が少ない。

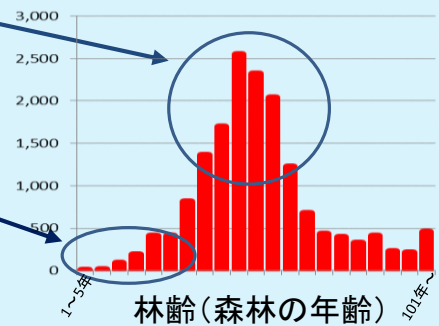


適正な主伐再造林を実施し、森林の若返りが必要。

【36～60年生 60%】

【25年生以下 4%】

林齢分布(関市 民有林人工林)



<概要>

- 豊かな森林資源を循環利用し、適正な主伐・再造林を推進するために、関市有林 1. 30ha(関市上之保大野地内)において地産地消型のモデル事業を実施

<プロジェクトにおける3つのコンセプト>

①地域内連携と地産地消

- 森林所有者、木材の生産者及び利用者(川上～川下)が連携し、主伐材を地域で活用

②木材生産性の向上

- 森林技術者の育成及び効率的な木材生産を図るため、専門家を交えた現地検討会を開催

③獣害対策の実証

- 地域における有効な獣害対策を検証(継続調査中)
(ツリーシェルター2種類、防護柵3種類を実施)

関市
(森林所有者)

(協)上之保デカ木
住宅センター
(木材利用者)

連携

中濃森林組合
(木材生産者)

岐阜県

- 中濃農林事務所(コーディネーター)
- 森林文化アカデミー(技術支援)
- 森林研究所(技術支援)



意見交換会



主伐・再造林の実施状況

生産された木材